

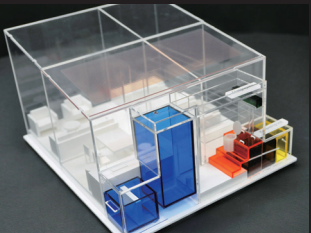


再生バッテリープロジェクト

パートナー企業：環境ライフテクノロジー株式会社

2012 年度 JICA BOP ビジネス F/S
プロポーザル 採択業務

バッテリー再生技術により、使用済みバッテリーを再生して、非電化地域へ電気を届ける容器として活用するビジネスの調査。再生バッテリー用の照明、携帯電話用充電器も現地で開発、製造し、再生バッテリーと組み合わせ、廉価なエネルギーユニットとして普及を目指す。



Zero-Unit プロジェクト

パートナー企業：株式会社 LIXIL

下水道やインフラの整っていない地域に人が居住するための自立型設備ユニット。「コンポスト」、「浄水」、「蓄電」の機能をひとつのユニットにまとめ、住居と切り離し単独で製造、設置できるようにしたもの。従来のネットワーク型インフラ設備に代わる分散自立型公共インフラへの提案。

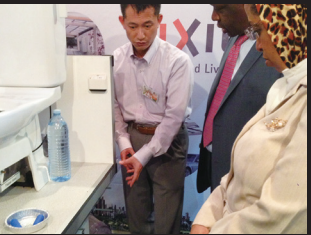


循環型無水トイレシステム

パートナー企業：株式会社 LIXIL

2013 年度 JICA 民間技術普及促進事業
プロポーザル 採択業務

ケニアの非都市部を対象にした循環型無水トイレシステム（水を使わずに排泄物を処理し、肥料化する一連のシステム）。ユーザーは生成された肥料販売や、肥料を用いて育てた農作物の販売により現金収入を得られ、従来型の下水処理施設建設が不要となることで、莫大な建設・維持コストを削減できる。また、一連のシステム運用には現地の雇用創出効果も期待できる。



超節水型トイレシステム

パートナー企業：株式会社 LIXIL

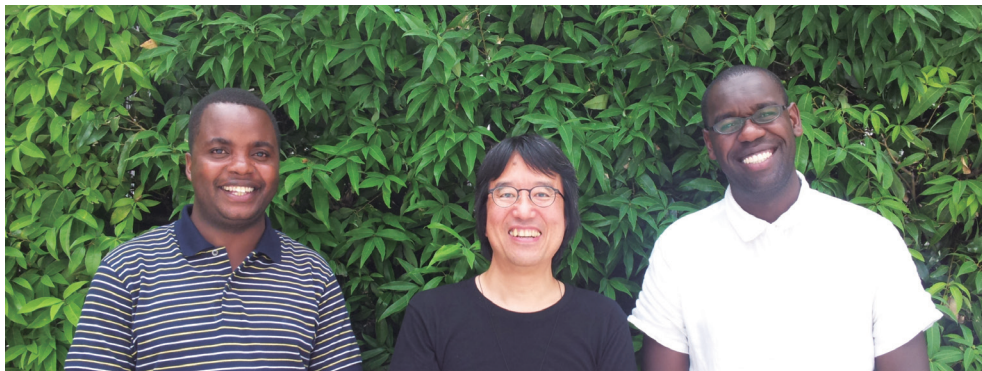
2014 年度 JICA 民間技術普及促進事業
プロポーザル 採択業務

ケニアの非都市部を対象にした「循環型無水トイレシステム」に対して、都市部に向けては、1リットル未満の水で機能する「超節水型トイレシステム」を提案。急激な人口増加により水不足に悩む都市部の水資源の有効活用、汚水処理コストの低減、公衆衛生、水環境の改善を目指す。

OSA SOCIAL DESIGN GROUP

日本のタネを ケニアでカタチに

ソーシャルデザイングループ、OSA は、日本とケニアに拠点を持ち、日本企業の優れた技術、プロダクトのタネをケニアでカタチにする仕事を進めています。ケニアの民間企業のみならず、行政機関、学術・研究機関、NGO、国際機関などを通じて、ケニア社会に広く、深いネットワークを構築することにより、日本企業にとって真に競争力と持続性のある事業展開を実現します。



OSA ケニア | 取締役

Emmanuel Mutisya

エマニュエル・ムティシヤ

国際基督教大学にて行政学修士修了後、東京大学にてサステナビリティ学博士号取得。国連大学研究員を経て、アフリカ開発銀行シニアエコノミスト、ナイロビ大学客員教授を歴任。持続可能な開発、環境、公衆衛生、気候変動、再生可能エネルギーなどの分野において、国連環境計画 (UNEP)、国連人間居住計画 (UNHABITAT)、国連開発計画 (UNDP) などの国際機関と共に、プロジェクト、プログラムのリーダーを務めている。現在、ケニア先端科学・技術大学院大学評議員議長、OSA ジャパンを兼任。

一般社団法人 OSA ジャパン | 会長

坂田 泉

京都大学大学院工学研究科修士課程修了。前川國男建築設計事務所在職中の 1994 年から 1 年間、JICA (国際協力機構) 専門家としてケニアのジョモ・ケニヤッタ農工大学にて建築教育に従事。2011 年、一般社団法人 OSA ジャパンを設立、会長に就任。現在、公益社団法人日本建築家協会 (JIA) 国際委員、国際建築家連合 (UIA) 'Social Habitat Work Programme' 委員、法政大学大学院デザイン工学研究科非常勤講師、一般社団法人アフリカ協会特別研究員、OSA ケニア顧問を兼任。

OSA ケニア | 取締役

Dick Olango

ディック・オランゴ

東京都立大学工学部建築学科卒業。坂茂建築設計事務所などでの実務経験を経て、AOAD (ATELIER OLANGO ARCHITECTURE・DESIGN) 建築設計事務所を設立、AAP (AFRICAN ARCHITECTURE PROJECT) を共同設立。スウェーデンにおける建築ビエンナーレや国連人間居住計画 (UNHABITAT) のプロポーザルに入賞、作品が展示される。現在、シービーアールイーCMソリューションズ株式会社に所属、OSA ジャパン顧問を兼任。

OSA ジャパン 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-5-1
OSA Kenya City Square, P.O.Box 9148-00100, Nairobi, KENYA
Email | info@osa-rainbow.com

虹プロジェクト | <http://www.osa-rainbow.com>
OSA Social Design Group | <http://www.osa-socialdesign.co.ke>

ソーラーシェアリング・プロジェクト

パートナー企業：株式会社 Looop

2015 年 5 月 ジョモ・ケニヤッタ農工大学と MOU 締結

「ソーラーシェアリング」とは、ソーラーパネルを農地の上空に設置し、発電と農業を両立させるシステム。電気は、農地の灌漑設備や農業用機器、「再生バッテリー（使用済みバッテリーを再生したもの）」による周辺の非電化地域への給電に利用する。ジョモ・ケニヤッタ農工大学との共同実証実験では、パネルが直射日光を緩和することによる農作物、農地への効果を検証している。



月桃プロジェクト

パートナー企業：有限会社エンジェルワールド

2015 年 7 月 現地農業企業 Meru Herbs と LOI 締結

沖縄の伝統的有用植物「月桃」によるケニアにおける生活習慣病予防と健康向上に向けた商品開発のプロジェクト。有機農業とフェアトレードを通じた農村女性のエンパワーメントを目指す現地企業、Meru Herbs 社との共同プロジェクト。2015 年 7 月以来、同社の農園にて月桃の試験栽培を開始し、2016 年 3 月、月桃による飲料の試作に成功。



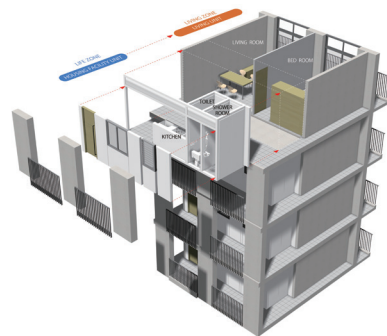
L & L ハウス・プロジェクト

パートナー企業：株式会社 ブレインワークス

2017 年度 JICA 案件化調査プロポーザル採択事業

2017 年 9 月 ケニア国家建設局と MOU 締結

「L & L ハウス」は、居住者の「生命（ライフ）」を司る「ライフ ユニット」と「生活（リビング）」に関わる「リビング ユニット」から構成される。「ライフ ユニット」は、節水、再生可能エネルギー、IoT などの技術を用い、水、エネルギーの安定的、効率的な供給や保健衛生、健康管理を担う高度に工業化、プレファブ化されたユニット。一方、「リビング ユニット」は、団らん、寝食、育児等のためのスペースで、従来の住居のスタイルをもとに標準化する。本プロジェクトでは、「L & L ハウス」の設計、開発と共に、その製造、建設、普及を担う人材育成を目指す。



「移動式 PCR 検査システム」プロジェクト

パートナー企業：TSP 太陽株式会社

2020 年度 国際連合工業開発機関（UNIDO）プロポーザル採択案件

現地カウンターパート：マチャコス県保健省・関連医療施設

太陽光電池モジュール搭載により非電化地域での稼働が可能で、移動が容易なトレーラー型の「移動式PCR検査システム」を設計、製造し、現地のカウンターパートとの連携により、新型コロナウイルス感染予防に向けた実証と技術移転をコロナ禍においてリモートで実施（2020 年 8 月から 2021 年 5 月まで）。



ケニア住宅建築プロジェクト

パートナー企業：株式会社フジタ（2019 年から 2022 年まで）、
2023 年からは弊社単独事業

国交省 住宅建築技術国際展開支援補助金事業採択案件

2024 年 3 月 ジョモ・ケニヤッタ農工大学と MOU 締結

2024 年 5 月 ケニア国家建設局から LOI（関心表明書）受理

2019 年度から連続採択されている国交省補助金事業。「施工性」「耐久性」「安全性」に優れる「厚肉床壁構造」、現地の廃棄土壌（黒綿土）の再資源化による「建材活用」、ジョモ・ケニヤッタ農工大学との「産学連携」を軸に、付加価値の高い住宅を実現する「設計」「開発」「工法」「監理」の事業化を目指す。



「発電農園」プロジェクト

パートナー企業：サステナジー株式会社

2023 年 9 月 ジョモ・ケニヤッタ農工大学と MOU 締結

ジョモ・ケニヤッタ農工大学との協同実証実験プロジェクトとして 2023 年 7 月に開始。地産地消型住宅、ソーラー発電設備、脱炭素 / 炭素貯留型農法の導入により、「居住・エネルギー・食」を包括する「発電農園」を目指す。大学での実証実験と並行して、現地農家へのソーラー発電設備と点滴灌漑設備の組み合わせによる「発電農園」のパイロット事業を進めている。

